



KICK OFF 通信

AIは人間の能力を超える！？ ①

◆20年先の社会情勢

昨今、AI(人工知能)が持てはやされておりまして、例えばチェスや囲碁などでも、世界チャンピオンとコンピュータと対戦した場合、どちらが勝つか大いに注目を浴びました。既に機械のほうが人間に勝つという結果でしたが、今後どの分野においても、AIに取って代わられていくのでしょうか。

これに関し、国立情報学研究所の新井教授を中心に、「ロボットは東大に入れるのか？」をテーマに様々な研究を展開しております。教授からすると、どんなに技術開発が進んでも、人間の思考力すべてを上回ることは不可能という結論です。

◆AIに淘汰されていく人間・そして仕事

しかしこれで安心することなかれでしょう。巷のゲームソフトでも同様ですが、機会の得意とするところは習慣化。コンピュータは何百万、いや何億通りの経験値を全て記憶させて、最適な形でアウトプ

ットすることが出来ます。もはや人間の能力が、これに太刀打ちすることは出来ません。

したがって、コンピュータを使ったデータの収集、加工、入力、分析等に関わる仕事は、あと10年も経てば全て機械が担うことになるでしょう。既に702種に分類された職業の約半分が消滅し、全雇用者の47%が職を失う恐れありと予測されているくらいです。

◆必要とされる人材・仕事は

他方、残る仕事として挙げられるのは、コミュニケーションや理解力が求められる分野、あるいは人間的な柔軟な判断力が必要な分野だとされております。医療・福祉系や、教育分野など人を相手にする仕事は機械では担えない面があります。そもそもAIは、限定された枠組みの中でしか計算処理ができませんので、応用が利かず、柔軟性がないことが弱点です。

それでは人間の強みとして活かしていかなければならない、コミュニケーション能力、応用力が果た

して万全なのでしょうか…。新井教授は、様々なサンプル調査をしながら、現在の子供達読解力が低下し続けていることに、警鐘を鳴らしております。

◆教科書が読めない子どもたち

新井教授はご自身の著からも、人間らしい力をもってAIと共存していくためには、何より教科書をきちんと読める子を育てることが大切だと提唱します。調査結果からして約3割の中学生が、表層的にも教科書が理解できないまま卒業してしまい、さらに学力中位の高校でも、半数以上がその内容理解を要する読解が出来ないとのことでした。

読解力を高めることは一筋縄ではいきませんし、現時点でも、最適な手法が見つからないわけでもありません。まさに各段階の教育現場でも試行錯誤を繰り返しております。次回は戸田市の読解力調査を元に、その手がかりを探っていきたいと思っております。



水戸まさし

【プロフィール】

昭和37年 7月28日生まれ
神奈川県立湘南高校・慶応義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に…

平成 4年 「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格
平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任

平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
維新の党・税制調査会事務局長
総務委員会&沖縄・北方領土特別委員会 両理事
国土交通委員会ならびに厚生労働委員会 委員
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長

平成29年 第48回 衆議院選挙出馬せず下野する
平成30年 一般社団法人 人づくり・国創り研究会を設立

前衆議院議員 / 神奈川5区(戸塚・泉・瀬谷)